

プリエールねっと通信



2022.5 月号

目次

お知らせ……………	1
2022 年度総会開催 人権男女共同参画課に再編	
市民企画講座報告……………	2・3
・「あなたの暮らしが見えますか？」 ・みんな老いる 「今の年金と介護で大丈夫？」	
お知らせ……………	4
インフォメーション	

《通信発行者》

プリエールねっと広報担当
芦原 康江
角 智子

□お知らせ

2022年度プリエールねっと総会開催

日時:5月21日(土) 10:00~11:40

場所:市民活動センター201・202研修室

※総会のあと、第3次松江市男女共同参画計画の説明
が人権男女共同参画課からあります。

2年余りも続く新型コロナウイルス感染症の感染拡大の波が
何回も押し寄せ、この島根県でも毎日100人以上の感染者が出
続けています。

このようなコロナ禍の中で、予定していた企画を延期した
り、縮小したりしながらではありますが、感染予防対策をとり

ながらできる形での活動を続けてまいりました。

2022年度も感染予防対策を取りながら活動を続けます。来る5月21日に総会の開催を予定していま
す。久々に会員同士が顔を合わせ意見交換の場としたいと思いますので、ぜひご出席ください。

人権男女共同参画課に再編

松江市の「夢を実現できるまち・誇れるまち松江」の実現に向けた市
役所の組織が再編されました。これに伴い、これまでの総務部人権施
策推進課と市民部男女共同参画課が統合し、市民部人権男女共同参画
課となりました。ここに男女共同参画センターが所属します。

人権男女共同参画課長 長廻 達也

男女共同参画センター所長 船木 忠

ご紹介した皆さんとともに、”プリエールねっと“はこれからも男女
共同参画の推進に取り組みます。

あなたの暮らしが見えますか？パート22



羽仁もと子

羽仁吉一、もと子(日本で初めての女性ジャーナリスト)夫妻によって雑誌「婦人之友」が創刊され羽仁もと子は、生活力を高め、家庭経営で培った女性の力を平和で豊かな社会の建設に向けてことを誌上から呼びかけ続けました。

その読者によって1930年(昭和5年)に「全国友の会」が設立され、松江友の会は、その10年後に設立されました。

現在の会員数は58人。当時の先輩たちから、その意思を引き継ぎ、コロナ禍で開催が難しい状況となった現在でも、例会を開催され続けていらっやいます。



現在の会員数は58人。当時の先輩たちから、その意思を引き継ぎ、コロナ禍で開催が難しい状況となった現在でも、例会を開催され続けていらっやいます。



3月19日は、松江友の会主催で表題の「生活講座」が開催されましたのでお邪魔してきました。

最初に、「段取り上手な暮らし」レシピを会員の3人から紹介がありました。レシピは・ポトフ・キーマカレー・キャベツの豚肉巻・青菜のナムル・野菜の重ね焼き・八宝菜風中華うま煮など、どれも美味しそうな料理で、作ってみたいくなります。

せっかくなので、皆さんに一つ紹介したいと思います。



□ポトフ

<材料>

鶏もも肉300g(骨付き 500~600g) {塩、コショウ、ワイン(または酒)で下味}、玉ねぎ、人参、キャベツ)粒マスタード

<作り方>

- ①深鍋に水を入れ、下味をした鶏肉を入れて、沸騰するまで強火、あくを取り中火で10~20分煮る。
- ②大きめに切った野菜とベイリーフを入れてコトコト。(鍋帽子をかけても良い)
- ③人参が柔らかくなったら、ブロッコリーとソーセージを入れてもう一度煮込み、塩とコショウで味を整える。
- ④器に盛って、粒マスタードを添える。

お話をされた中のお二人は、働きながら子育てをされてきた中で、友の会に入会し、出汁の取り方や食材を無駄なく使いきること、収納のポイント、省エネ(この日は鍋帽子をかぶせて余熱を使った調理方法を紹介されました)などを説明されました。



—紹介された鍋帽子—

また、同会は日常生活の中でできる環境問題への配慮なども実践されています。人にも環境にも良い台所用品として、食器洗いたわしをヘチマや竹、亀の子たわしなどを推奨され、会場に展示されていました。



みんな老いる～「今の年金と介護で大丈夫？」

介護を受けるような年齢になると、その生活を支える収入は年金のみとなります。しかし、わたしたちの実感には“生活するのがやっと”という状態ではないでしょうか？

Ⅰ女性会議しまねの皆さんは、その年金と介護の実態に付いて、3月26日に勉強会を開催されました。ちなみに、日本年金機構の資料によると、国民年金老齢基礎年金給付額は月額約65,000円(40年納付)で老齢厚生年金給付額は月額約90,000円(40年納付)と記されており、働いて厚生年金を40年支払った場合は約155,000円の年金額となっています。

しかし、厚生労働省の令和2年厚生年金保険・国民年金事業の概況では、全国平均受給月額は146,145円で、島根県の平均受給月額は127,742円となっています。これは平均ですから、もっと少ない方が相当いらっしゃるということです。きついですね！

この日は、市内のデイサービス事業所を運営されている角田広子さんから、介護事業所においては、人材不足が続き、常に賃金の高いところへと労働者は移動している。人数が少なくても継続できるよう、事業所の統合を考えた事があったが、幸いにも働いてくれる人が見つかって継続することができたという話をされました。

また、3年ごとに介護保険制度の見直しがあり、見直しの内容を理解し、応じた人員配置や計画を作成し、介護サービスを行っていくことが求められるため、専門の人員配置ができていく規模の大きい事業所は、すぐに新しい制度に対応できるが、小さい事業所は人も財政も少ないため、その度に大変な思いをしている実態があると話されました。

松江市社会福祉協議会包括支援センターの竹谷師子さんは、介護保険制度、介護サービス利用者とサービス事業者をつなぐための制度、サービスの利用者負担や利用できるサービスなどについて説明されました。

介護保険を受けるためには、介助の必要性や身体の状態など調査を受け、認定されないと簡単には利用できませんし、受けるサービスも限定され、定期的な調査・認定も必要とのことでした。制度を知っておき、どんなサービスを受けるのか、自分で考え、選ぶことも大切なことだと感じます。

参加者の皆さんからは、介護が必要となった場合に利用できるサービスや利用負担への不安、少ない年金収入など、厳しい現実への不安が出されていました。若い世代の参加者からは、国としての改革が必要だとの意見がありました。

また、「松江市の人・家族・文化では、家族が助け合って遠くからでも金銭的支援する・・・というフレーズを聞きながらも、そ

れに取りこぼされている高齢者もいます。『ひとり残らず』孤独な高齢者も助けられたいです。身より、血縁者のないひとりで老いていく人も。』といった切実な声も上がっていました。

地域で見る、生活をすると言われているけど、全てにおいてお金が必要で、他人事ではありません。これが現実で、私たちはどのようにしていくべきか大きな問題だと感じました。



Ⅰ女性会議の皆さんは、「安心して老後の生活を営むためには、様々な制度を誰にももっとわかりやすく利用しやすいものにする必要があると思う」と話されました。そして、「何

より、安心して暮らせる収入を保障する制度改善が必要だ」「軍事費を減らし、社会福祉へ回してほしい。スウェーデンなどのように医療費を無料にしてほしい。」とも…。お金を何に優先的に使うのかが問われているのだと思いました。

インフォメーション

あすてらすフェスティバル 2022

しまねの^{あした}未来のために、
今こそジェンダー平等について考えよう

6月11日(土) 10:00~16:00

島根県立男女共同参画センター あすてらす

10:00~12:00 映画上映

ビリーブ ~未来への大逆転~

13:00~15:00 講演会

今こそ考えたい、「ジェンダー平等」

~男女格差の解消がしまねを救う(仮)~

講師: 相模女子大学大学院特任教授

しらかわ とうこ
白河 桃子

男女共同参画白書 令和3年版(コラム)より

女性の家事等の時間増加は世界共通

コロナ下で女性の家事・育児に充てる時間が増えたのは、世界共通にみられる現象である。

UN Women(国連女性機関)が令和2(2020)年11月にまとめたレポートによると、新型コロナウイルス感染症が拡大する前、世界各国・地域において、女性は男性の約3倍もの時間を家事等に費やしていた。一方、コロナ下では、外出自粛による在宅時間の増加等に伴い、男女ともに家事等の時間が増加した。しかし、男女間の不均衡は改善されず、依然としてその多くを女性が担っている。

同レポートで参照されている38か国を対象に行われた調査では、家事等に費やす時間が増加したと回答した女性は60%、男性は54%であり、その大変さが増したと回答した女性は28%、男性は16%に上った。特に、女性は、料理・食事の提供、掃除・洗濯等、子供の世話で費やす時間が増えたと回答した割合が高い。

男女共同参画週間

「あなたらしい」を築く、
「あたららしい」社会へ

6月23日(水)~6月29日(火)

パネル展示

イオン松江 6月17日(金)~30日(木)

新しい仲間が増えました

新たな団体が加入されて団体が増える一方で脱退される団体もあり、会員に異動がありました。

新規会員

島根のちょっし LGBTQ 相談室

退会

障がい児(者)福祉支援サポートの会

市民企画講座募集

プリエールねっとでは、市民や団体の皆さんが自主的に企画運営する男女共同参画につながる学習会や講演会、ワークショップなどの開催を支援します。

(支援内容)

- ・市民活動センターの研修室等の使用料
 - ・託児 1 講座 10 人
 - ・白潟駐車場の駐車料
 - ・チラシ用紙、印刷(センター輪転機使用)
 - ・リモート活用の際のインターネット料金
- 詳しいことについてはプリエールねっと事務局まで(TEL: 32-1190)